

保存版

VOL.
18

町雑誌 千住



特集 ■ 千住を往く一常東編PART1

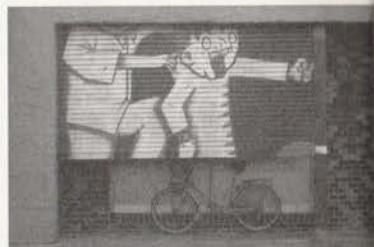
- 連載 ■ 千住の思い出⑦ ■ 千住蔵の町⑪ ■ 千住タイムトラベル⑨
■ 千住DAISUKI / 千寿第七小学校・阿部俊子先生 / 千住アド街ック天国
晴れ! 時々千住横丁 / さようなら千代の湯 ■ 千住を訪む③
■ 喫茶店のランチ&モーニング食べ歩きPart 2 ■ 千住にいた町⑤ ■ 行きつけの店⑤

価格300円 Machi-Zasshi Senju



▲千住の東西を結ぶ地下道 ▶北千住駅東口のにぎわい

千住の東西を結ぶ地下道
▶北千住駅東口のにぎわい
知っているはずの場所でも改めて見ると新鮮な驚きに出会うことがある。ぶらり半日、旅人になつた気分で観光してみるのも面白い。千住育ちの写真家柳下勉氏と、この春から助手として千住に通う大嶋裕之君が、気の向くままに歩いて眼にしたもの感じたことを、順番に追ってみた。



▲旭町で見かけた会社のシャッター



北千住の駅と線路で縦断された東口側は、日ノ出町、千住旭町、千住東、千住曙町、と「東」にちなんでついた名前が並ぶ。千住というと、とかく西口側の旧道界隈がクローズアップされがちだが、東口側の魅力も相当なものだ。生活に便利な地元商店が並び、ちいさなエリアに銭湯が五軒、駅が四駅あるというのも凄い。

知っているはずの場所でも改めて見ると新鮮な驚きに出会うことがある。ぶらり半日、旅人になつた気分で観光してみるのも面白い。千住育ちの写真家柳下勉氏と、この春から助手として千住に

通う大嶋裕之君が、気の向くままに歩いて眼にしたもの感じたことを、順番に追ってみた。



千住を往く 常東編

PART1

表紙イラスト：なかだえり

写真／武居厚志



目

次



特集 千住を往く 常東編 part1	1
連載 千住の思い出②	9
連載 千住蔵の町 ⑪	10
連載 千住タイムトラベル⑨	13
連載 千住DAISUKI	14
千七小一年五組阿部俊子先生（桜木）	14
千住アド街ック天国（千住全域）	16
晴れ！ときどき千住横丁（千住1丁目）	18
さようなら千代の湯（千住3丁目）	19
連載 千住を詠む③	19
連載 喫茶店のランチ＆モーニング食べ歩き part2	20
連載 千住に似た町⑤	24
連載 千住行きつけの店⑤	26
お願いなど	28



▲⑤道を一本入ると人通りが少なくなる。立派な質屋さんを発見。大家の大塚昌宏さんにお話を伺うと、大正中期に奈良県の棟梁が作ったもの。瓦の造りが反ってないので雪が落ちやすいとのこと



▲⑥旭町公園はお母さんに連れられた子供たちが遊んでいる。「ここは『たろう山公園』ともいうの」と一人のお母さん



▲⑦この「のれん」は親戚が手作りで書いてくれたものと、とんかつのもりさきさん。店はこのお二人がやっている

▶⑧軽トラで魚を売っている長谷川松夫さん千住方面に来るようになって1年くらい



▲⑩住宅街に突然あった影山食品店の店内は花の写真であふれている



うだいりて
古町並みも残つて
うだいりよ



▲⑪理性院。入口の「ほうき地蔵さん」は檀家の吉田誠さんが亡きお母さんを偲んで寄進したと碑文にあった※A

▶⑫駅前からまっすぐ延びる学園通りの右側は細い道に住宅がびっしり。銭湯の煙突も見えるし意外にも教会もあったりする。さまよいながら歩くのは楽しい



▶⑬古い門を見ていたら、向かいの前田静子さんが「昔は立派だったのよ」と説明してくれた



▲②足立税務署のモニュメント

東京のトライアングル
ゾーンが今回のエリア

■常東地区■

総面積
230.2ヘクタール

人口
24,584人

世帯数
11,327世帯

数字で見る足立
(平成15年)より



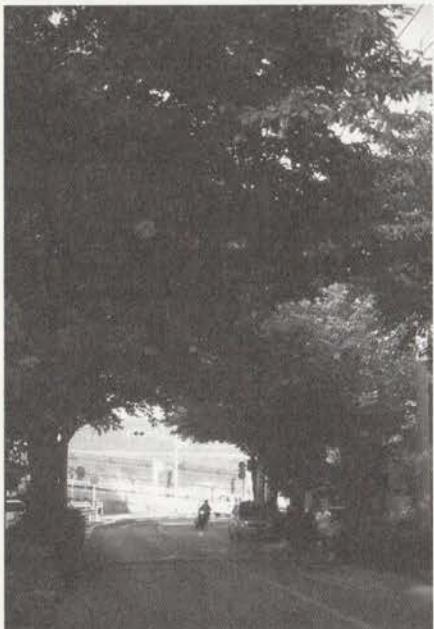
▲③大きな集合住宅は日ノ出町団地



▲ガード下には色々な落書き

◀④団地の横に、ひっそりと小さな彫刻が美しい日ノ出町ブチテラス

▼⑯ 柳原本通りの桜並木のトンネル。その先に土堤が見える



ねいの迷道には
といもうには
とき



いろんなもの
が見えてくる

※⑰ 2本のぼりが印象的な11面觀音。お線香が焚かれているが、だれも通らず、説明も無く、でも すごく大事にされているようだ

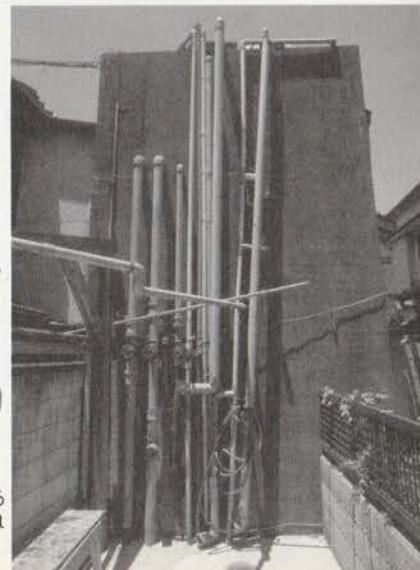


▲⑯ 柳原稻荷神社 富士塚 ※B



▲柳原訪問薬局のかわいい車

▼㉑ 松の湯の配管オブジェ。旅人気分がもりあがる



▲⑯ 左へ行くと柳原神社 右へ行くと千草通り 右に行ってみた

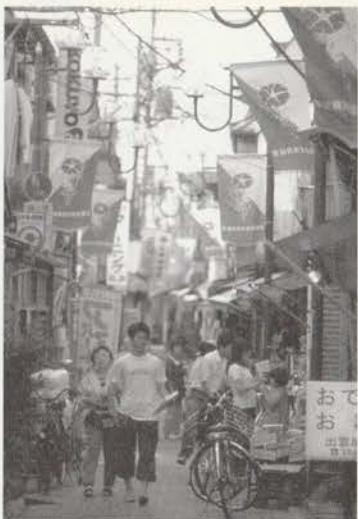


▲⑯ 大久保義治さん主催の鷹窯陶房で陶芸
を体验させていただいて大感激



人の暖かさに出
会う。やしさや
明るさに何だが
ドキドキする

▲⑰ 千草あるふあ、斎藤貞子
さんのたい焼きは「金八先生」
でも有名。こちらでもごちそ
うになってしまった



▲⑯ 細長い千草通り



▲⑯ 千草通り。その入口にあるえびす屋さんで、
うなぎをさばいている所を撮らせていただいた。
店頭でご夫婦のすいぶんといい笑顔、地元の有名人らしい。下町らしいと云えば、お店に来ていた
お客さん。お店のご主人に「この人について
行くと面白いよ」と云われて本当にについて行
ったら、なんとその
▲三浦美知子さんは、
御自宅で「すいとん」
をごちそうしてくれま
した。なんでも今日は
亡くなつたご主人の月
命日なのだそう。おい
しかった



▲千草通りではこどもたち
が自転車で遊んでいる。
ここは車が入って来なくて
安全でいいなど実感



走り続ける小一年たち



▲柳原。何人ものサッカー部員が荒川土手を目指して街中を走る。多分1年生は道具を持って3年生は靴だけを持って柳原稻荷神社の角から大和湯前、昭栄会中を走ってくる。3年が後から1年に声をかけて道具をだまって持って走り去る。いい先輩だな



▲(28)美登利湯前の鳥好

▼(29)美登利湯に入る。気持ちいい。生き返る



▲(29)大和湯前も走る。とにかくよく走る



金八先生
気分にな
つてみる



▲路地栽培。どの家にも工夫が見える



(29)

▲陸橋を渡って線路の反対側、西口に立つ気分は金八先生の安西君と高崎君

◀(22)おなじみの1.7メートル高架下は10センチ掘り下げたとか。買い物帰りの福岡久子さん



▲仲良くシャボン玉を楽しむ星野華子ちゃんと桃子ちゃん



②柳原千草園(野草園)※D

▲「変わった形の花だねあの花は何の花かなあ」と篠田さんと健太くん「今日は自転車で散歩中、千住には嫁いでから住んでいます」

▶山崎宏さんとトメさん「散歩は日課、千草園はよく通る。今日はおじいさんの足の爪がはがれてしまっているのでゆっくり二人で歩いています」

▼(22)土手まで出ると視界が急に拡がる。気持ちいい



▲ゴールデンリトルバーのプラットとスピカと近藤秀美さん「今日はフリスビー遊びをしにきたの」

▶竹内仁之さんと石原圭音ちゃん「こうして孫自転車で土手を散歩するのが日課なんだよ」



▲堀切橋下近く、小さな駅の前は草でいっぱい。後ろから学生が来て、こちらに一礼して走り去る。ここは堀切駅東口

▶手長海老を探っていた橋本さん「川の中にはささつていて、よくエビが付くんだよ。揚げて食べるとおいしいよ」



千住の思い出 2

千住に出ると、路地から路地を歩くようにしている。随分と町の様子もかわり、路地裏もみな建て替えてモダンになつたがよそよそしい。千住らしくない。千住はやっぱり長屋がいい。そこに人情の塊が蠢き生きていた。

さすがに昭和初年の長屋は無くなつた。好きだったのは、貧しい長屋であつても格子戸を磨砂で磨き綺麗に住んで居た年寄りたちである。そうした家の前には、畳半分もない庭があつて八つ手が青々と茂り、入口の三和土には万年青や棕櫚竹の鉢などがあり、日毎こまめに手入れしていて住む人の人柄が忍ばれた。居心地のいい町とは田園調布ではなく、奢りも街いもないこうした人々が隣に住んでいる町である。

千住仲町の氷川神社通り東の裏長屋、東町の長屋、一丁目旧道から東側の長屋などが古くて平屋が多かつた。



千住の長屋

安藤義雄

平屋が多いのでは大川町・元町も同じだった。こちらは関東大震災以後、町営住宅や長屋が建てられ転居してきた人々が住んだ。

宮元町や中居町、寿町、竜田町などには始めから二階建ての長屋や家作が並んだ。昭和二年、開通間もない新国道四号に千住大橋を渡つて市電（後の都電）が乗り入ってきた。このため沿線は新開地ブームになり、住宅も東京の市中並みになつたのである。

屋は二戸一棟の長屋。一戸は間口一間の玄関半坪、出窓付き三畳、押入れ・窓付き六畳、台所一・五坪流し付き、それに半坪の掃出し廊下と便所、一坪の庭があり、共同の井戸か水道というのが典型的。一戸四百円で新築し、家賃十円ぐらい。初任給三十円前後の時代、住居費は昔も結構高かった。日庸取り一円以下の労働者では、新築は無理だから中古の長屋に住んでいた。

現在では、賃貸住宅の料金は何

年経っても変わらないが、昔は続々と新築したから、一二、三年もすると新築の家に引っ越す。空家は中古となり家賃を下げ、七円で住む人が入る。この人もいい中古を見つけると越した。

つぎに貸すときは四円と半値以下。こうなると十年以上経ち家も痛む。入居してくる人も貧乏を絵に描いたような子沢山、半年もすると家賃を払わなくなる。だから追い出したいが素直に出て行く相手ではない。大家さんも心得いて放つて置く。

実は、はじめから十数年経てば壊れるよう建てるのだ。貧乏人の子沢山、悪ガキが暴れると古材の根太が抜ける。畳は子どもに相撲取られて浮腫む。襖は肋骨がむき出しとなり、障子は骨折だらけ。家がくたびれて傾くと寝かせた赤ん坊が座敷から転がつて地面に落ちる。屋根瓦はもともと一列少なく葺いてあるから地震後は雨漏り。バケツで間に合う内はいいが、洗面器から洗い桶まで総動員となつてついに引っ越すのである。

レイアウト高橋康子



※E
⑩
常東小学校前の甲良屋敷跡を見ていると子ども達が寄ってきた



⑪ 梅の湯前で出会ったすごい長身の人。「銭湯はいいよ、オレは家の風呂には入れない」と云う。そりゃそうだろうなーと思う。

⑫ 弁天湯の横で白粉花から何か採っている常東小学生がいる。アリを釣るひものようなものを採っているという。そんな遊びは初めてだったので実際にアリを釣って見せてもらった。面白い



⑬ 東口壁画ギャラリーは常東小学生の傑作が展示。不思議な絵に見えるのは、決して……ホッピーパーティー2杯飲んだせいじゃない

また
また
また
また
また



■プロフィール／柳下 勉
千住育ち 千住写真館グループとして千住・町・元・探勝隊
のコラボレーションも多い
北区在住 柳下氏アシスタントとして就職 取材を通して千住の面白さに目覚めたところ
大鷹裕之
の面白さに目覚めたところ
柳原昭栄会
荒川
千草通り
柳原本通り
北千住駅
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33
牛田駅
京成関屋駅
堀切駅
北千住
た
と
こ
ろ



姿を変える蔵・上

■蔵が姿を現す ■

旧日光街道沿いその蔵は長く住いとして利用されてきた。堀ごしに見える二階部分はすっかり葛に覆われて、東向きの明るいサンルームまで寄り添っているが、大きな鬼瓦に始まる外形から、それが蔵であることが窺える。



大きな鬼瓦は明治後半期の特徴とか

千住三丁目の絵馬屋吉田家と路地を挟んで隣。伝馬屋敷で知られる横山家のはす向かいにあって界隈の貴重な景観のひとつを担っていた。北側の吉田家との隙間から続く細い路地は、規則的に御影石が敷かれて、そのひそやかで魅力的な空間を好む人も多かった。

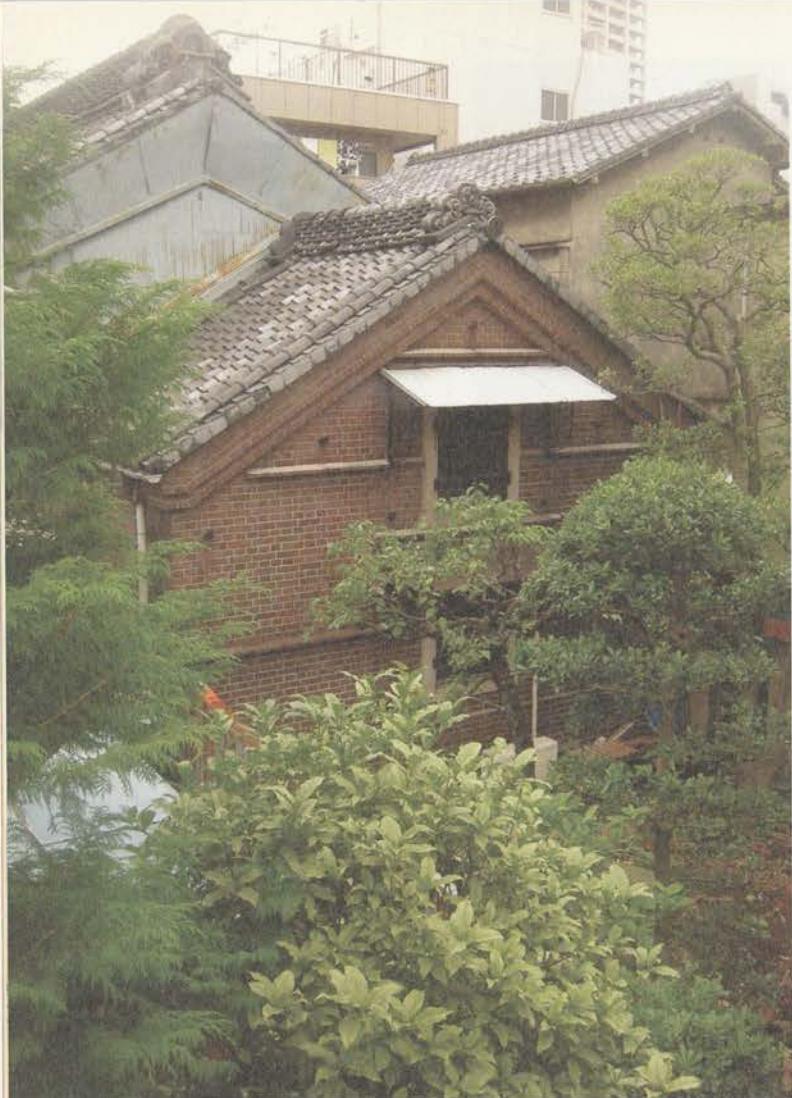
蔵が造られたのは明治33年。もともとは手前に籠屋があった。その建物を建てる一階部分を事務所と作業場にして家族は二階で暮らしていた。その後戦争が激しくなって、その奥にあった横山質屋さんが疎開したのを機に蔵を含む建物を買取ったという。当時は建物疎開や空き地で建物がどんどん無くなっていた時代で、蔵も東京

大空襲で焼けてしまうかと思ったが、幸運にも燃えず残った。

■蔵から住居への転用 ■

ヤマガタに松の文字が入った鬼瓦の横山質屋の蔵は2棟。手前の蔵は質店として、帳場など店舗機能があったが、裏の煉瓦蔵は純粋に質草などを管理する蔵として使っていたそろをつくり、下はお客様用の部屋に場だた部分を居間に変えて、住まいに建て替えた。奥の煉瓦蔵にも玄関をつくり、下はお客様用の部屋に変え、2階は蔵のままにして刀剣や絵画などのコレクションを納めていたという。「何だからしおう大工がきてあちこち直していた」という蔵。現在見られる東向きの明るいサンルームや蔵にある入り口は、その時に改装したものらしい。以来、住み手は変わつてもずっと住居として扱われてきた。阿部さん自身は蔵には1年間ぐらいしか住んでいず、昭和30年に結婚後、横にあった隠居所と呼ばれる建物で暮らしていた。

建て替えが決まり、堀が消えて裏庭の立ち木が切られると蔵の姿はよ



共になくなった裏手のアパート階段踊場より撮影

通り、暖簾をくぐる。大切な質草を預ける身には、店が蔵の造りであることで、安心を伴う効果もあったのだろう。

■蔵の姿が消える ■

2棟の蔵、そして隠居所や裏にあつたアパートも含めて、この一角は大きなマンションになる。隣接する路地も、もちろん様変わりする。私たちにとつては大変残念なことだが、阿部さんにとっても永年親しんだ思い出の分も含めて私たち以上に思い入れがあることだろう。「蔵は冬あたたかく、夏涼しい。蔵の中にむしろをして昼寝をすると外より過ごしやすかった。住むには快適、でも



通り側蔵の入口は掃出し窓として利用されていた。

千住タイムトラベル

9

この連載は、千住の町を西へ東へ歩くだけでなく、少しそ過去へも歩いていただくための道しるべです。

■あの頃の話（4）■

ぼった焼、もんじゃ焼、どんどん焼、お好み焼、と呼び方も、云い方も時代と共に違っていてもやる事は同じで鉄板焼のことだ。戦前、戦中、とあの頃（子供の頃）の思い出はいろいろあるが駄菓子屋での「ぼった焼」のことは印象に深く残っている。現在は殆どがお好み焼とよばれて食材も多くメニューもいろいろあり、特に女性には人気のある食べ物だ。千住の旧道沿いには商家が並び、その横に私道の路地が數十本あり、横丁がありで自転車がヤット通れる道には駄菓子屋が多かった。

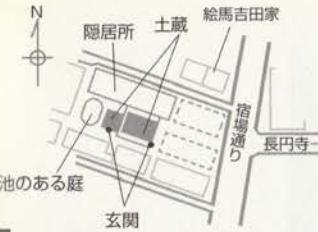
昭和五、六年頃は各町内に二、三軒の駄菓子屋があった。夏は氷力キ、冬はボッタ焼と季節に応じて子供達の好きなものを揃えてくれた。夏の暑い日

には縁台に腰かけて力キ氷を食べたことも、思い出の一つだ。現在のようにスイッチ一つで氷が廻ってすぐ出来上がるのではなく、大きな氷をカンナ台の上にのせ布切れすべらない様に、又手が冷えないように氷をおさえて、前後にザクザクと削る音も懐かしいものだ。

冬のボッタ焼、この言葉も今は死語になっている。十一月の初旬霜が降りてくる頃になると何処の駄菓子屋もぼった焼をはじめる。昔は現在のような便利なガス点火で火力の調節出来るバーナーがなく練炭コンロで鉄板を焼くので、支度して準備するのが大変だ。お客様は全部が子供だけなので子供が学校の退ける午後二、三時頃まで丁度使い頃になる様に火加減する為に、朝十時頃からコンロに火を入れて子供が来る頃まで練炭のクサミ、中毒にならない様に換気も考える気配りが大変だった。練炭も鉄板の大



（写真・文：石坂満／郷土写真家）



蔵の外装を増築した部屋の装飾に利用していた

■プロフィール／川上佳子 神戸生まれ。町雑誌「千住創刊時より参加。千住・町・元氣・探険隊まちあるき組長。時の流れで、まちが姿を変えるのは寂しいながら当然のことと思う。けれども「宿場通り」と名付けられたこの界隈で、このまちの記憶はやはり何かの形で残していくべきだ。阿部さん自身が蔵への愛着を持ち、まちに対する責任もよく考えて下さっているのが随分と頼もしいことで取り壊し直前のお忙しさなかにお邪魔して、蔵の実測調査もさせていただいた。連載次回ではその調査内容を掲載して、更に新しい建物の完成を待つて「姿を変えた蔵」として本欄でご紹介したいと考えている。

取材／川上佳子

きさに合わせて二種類あった。学校が退けて子供が来ると部屋の中はゴッタ返して大変だ。お腹を壊すと大変だからと親から禁止されている子も、こっそりとやってくる。「アタイ（自分は）アンコ玉だよ」「アタイはソースキャベツ」と注文があり、焼き方は今と変わらないが鉄板の上では焼く場所の領域争いがあってケンカになる時もあった。子供達も中の様子を見るのに脱いである下駄、草履、靴を見て仲間がいるかいないかと判断していた。路地は安全地帯であり、子供はすぐ別の駄菓子屋へとんでいった。

幼い頃の思い出で、下町の路地で生まれた小さな食文化ボッタ焼が、時代と共に変化発展して今日のようなお好み焼、鉄板焼と堂々と店を張って商売出来るようになるとは、ゆめにも思わなかった。

▶後につくられたという塀と蔵の隙間の通路奥、裏側の蔵側面に広い入口

どつか薄暗くて…。子どもの冒險心をかきたてる建物でした。」蔵を解体するときにできた鉄釘を「ほらこれ、手作りですよ。昔のものはみんな人の手の匂いがあるんですね」と見せてくれた阿部さん。何とか界隈の景観を損なわずに、蔵の特徴ある部材を新しい建物に上手く取り入れた建物にしたいと考えておられるそうだ。その精神は、もともと蔵だった建物を住居に改築したお父さんゆずりかもしれない。住居となつた蔵自体の内装も、蔵本来のしつらえ



厳選茶葉で煎れた日本茶（玉露・煎茶・抹茶）と特注の和菓子をセットで！
ぎゃらりーでは現代陶芸家の趣ある器を展示販売・作家展も開催しています



日本茶カフェ
和陶器ぎゃらリー

茶翁
Sa oh

北千住駅西口ミルディス1番館（丸井）地下1階専門店・エスカレーター脇
TEL.03(4376)5062 URL <http://www.adachi.ne.jp/users/atlrmiya/index.html>

「だから阿部先生を囲む会なのよ。みんな阿部先生のパワーをもらひにくるんだから」

千寿第七小学校

(緒舞台後は千寿桜小学校となった)

一年五組 阿部俊子先生

「今まで長続きした秘訣はね、同窓会じゃなくて阿部先生を囲む会だから。」そう語るのは荻原正江さん。この日集まっていた他の人も、その言葉にうなづく。まさに半世紀も続いた会なのである。

取材日に阿部先生を閉むようにして荻原さん宅に集まつた6人は、千寿第七小学校(現千寿桜小学校)で1年から4年生まで阿部先生を担任とした同級生。終戦直前に生まれた子供たちだ。

阿部俊子さんは父親が満鉄勤務だった関係で大正3年に満州で生まれ、大連で結婚。満州で夫婦とも教員をしていたが、終戦後引き上げで東京へ。小学校の教員免許を取り直して、初めて受け持つた生徒たちが1年5組の彼らなのだ。「初めての生徒で4年生までクラス替えしなしだったから、かわいくて仕方がなかつた。あんまり学校学校っていうもんだから、自分の子どもたちにお母さんは僕たちと学校の子どもとどちらがかわいいの?って責められたこともあるのよ」と阿部先生。

そんな愛情を受けて育つた生徒たちは、当然先生に信頼を寄せる。中

学を卒業した昭和36年に、1回目のクラス会を開いた後も折りにふれて開催、阿部先生が80歳を迎えてからは毎年の恒例となつていて。

話題の中心は子どもの頃の思い出。最初の校舎は木造平屋建てのバーラックで、生徒数が多いため午前中から昼までと、昼から夕方までの2部授業を行つていたこと。「朝からのだと給食ができるんだよな。で昼からだと、朝から生徒が給食食べる教室の後ろで待つてなきやならないくて。なんとなく朝からの方が得した気分なんだ。」と塙久さん。学校の窓が校章の入つた磨り硝子だったのは、実は溢まれないための方策だったのだと、芝居小屋だった寿劇場へ座布団をもつて通つたことや、大川町公園でローラースケートをして遊んだこと大人用の大きな自転車で乗り方を覚えたことなど、みんな下の名前で呼び合つて、ほんぽんと機関銃のように次から次へと共通の話が尽きることがない。思い出話というよりも、先生を軸にして、その頃の年代に戻つているかのよう見える。

今、千住に住んでいるのは10人近く。今年は先生が90歳で教え子たちが60歳

という節目の年に当たり、特別盛大なクラス会を行つた。わざわざ出張先から成田空港に帰ってきたその足で、会場に駆けつけた人もいたそ。

阿部先生も「体調がおかしくなつたとき、子どもたちが、今度は来年また生徒さんたちとクラス会で会うんでしょ。だからがんばらなきやだめだよつて応援してくれて」毎年教え子と会えるのを楽しみにしている。そして何やら教え子との年齢差はどんどん縮まつているような気さえする。

先生は、学校を変えることなくずっと千七年で教え続けたとのこと。「変わりたくなかつたから」さらりと仰るが、そう出来たのも珍しいことに思える。校舎はその後頻繁に増改築を重ねて様変わりしたが、毅然として、それでいておおらかな愛に出会い、のびのびと小学校生活を送つた幸せな子供達は、延べ随分な人数になる。千住在住で阿部先生を懐かしく語る人も多い。今まで同じクラスでいう枠だったが、来年からはこだわることなく「先生を囲む会」を開くことにした。更に次の節目と考えているのは先生が99歳を迎える年。今から、「うんと盛大な企画」をいろいろ考えている。



当時の窓硝子

卒業記念文集
(第二十一回卒業生)
思出の窓

05年は5月吉日浅草集合で浜離宮で会食という具体的な日程も決まつてゐる。学年クラスに限らず参加希望の方は下記まで
03-3882-3905
田野南海子さん
(旧姓小滝さん)

荻原さんの弟光雄さん入学時の写真
後方に平屋校舎が見える。その後建てられた二階建て校舎が卒業文集の表紙を飾っている。文集中に「おかあさんは答えて下さいました」という懐かしい言葉使いの記述がある。

新涼の千住大橋

きつね雨



延々と続く50メートルの壁には、ロール紙に描かれたエネルギーッシュな子供達の絵。

千住旭町学園通りで行われるアートイベントは、04年5月で4回目を迎えた。路上にロール紙を敷いてそこに参加者が思い思いの絵を描くというダイナミックな催しで、通り沿いにはアート関連の出展者が、それぞれのワークショップを展開するという形の、

町雑誌千住も今年度から「ぬりえ」などで参加している。

さよなら千代の湯

2004年9月30日。千住3丁目、旧街道筋の路地奥にあった千代の湯が廃業した。朝日があたった赤富士のベンキ絵は千住でただ一軒、千代の湯だけという約束で絵師・早川利光さんが描いた見事なもの。日本庭園にいた鯉は千住元町のタカラ湯さんに引き取られ

る。「タカラ湯さんの池は立派ですから、ウチの鯉も喜ぶでしょう」とご主人。廃業を聞いて、千代の湯の名前の由来となった初代千代松さんのご子息も遠方から訪れた。最終日は仕舞い湯まで廃業を惜しむ人々が絶えることがなかった。

取材・文 川上健子



▲右夏下部2点とも千代の湯「千佳横丁」より



埠の透明部分から窺える工事の状況もアートの一部



写真に俳句を添えてパウチしたものを常設

晴れ！ときどき千住横丁



▲小畠洋子氏とのコラボレーション



えている。

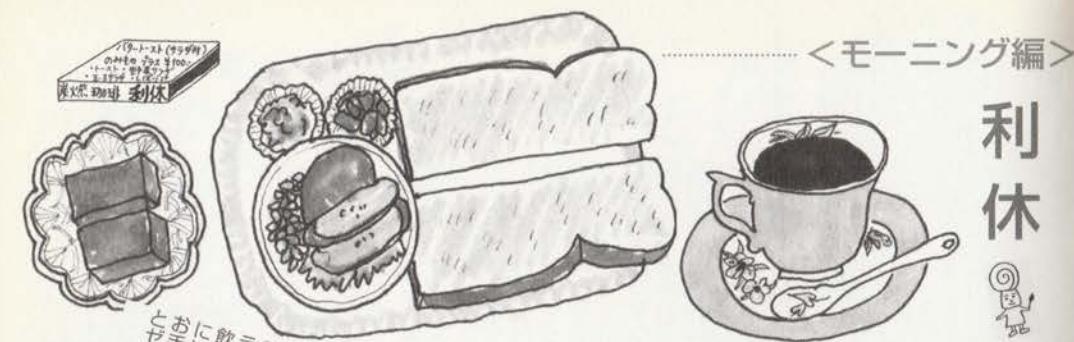
したいと事業所の戸田建設に申し入れをして快諾を得、早速東側と北側壁面のギャラリー化に取り組んだ。今春北千住マルイの駅側エレベーターホールに「千住横丁」として千住の銭湯や地元イラストレーター小松咲子氏の作品展示をしたA1版の写真群を貼ったのを皮切りに、現在は東口アートイベント時の超横長の作品も展示されている。柳下さんは、工事終了までのこのアートスペースには、少しでも多くの人の作品を発表し、和やかで楽しい空間にしたいと考えている。

かつては足立区民は必ず足を運んだ事のあるはずの、千住一丁目にあつた足立区役所本庁舎。中央本町に移転してからはイベント広場としてフリーマーケットやテント興行に親しまれていたが04年春から（仮称）あだち新産業振興センターを含む地上22階地下1階のビルになる建築工事が始まつた。

「千住の顔」展。東京都中央卸売市場足立市場まぐろセリ場を会場とした写真展「魚河岸 D·E」では、当時の千寿桜小の六年生全員がそれぞれ家族の好きな場所で撮った家族の写真、「こどもたちのまなざし」展と併催して、早朝のセリの写真を水を張ったトロ箱に入れて展示するなど、着眼の豊かさでは定評がある。

喫茶店のランチ＆モーニング食べ歩き

Part2



・<モーニング編>

利休

駅前通りから駒道に入つてすぐに「利休」はある。店の名前は、「10年前に店を始める頃に茶人の利休の本を読んで、珈琲を淹れることを極めていたい」としてかかけたんだ」とママ。フレンド一杯700円は他店に比べてやや高めだが、一口飲んでなるほどと頷いた。薰りが違う。紀州の備長炭で煎った豆を使い、ブルマン基調でフレンドしているそうだ。一方モーニングメニューはリーズナブル。飲み物フルス100円でトーストとサラダが食べられる。しかもモーニングサービスは午後1時までだから、女性のお層に飯にもちようどいい。深入りのコーヒー豆に似たダークブラウンの内装も雰囲気がよく、カウンター後ろの壁一面にすらりと並んだコーヒーカップをひとつひとつ眺めながら、至福のひとときを過ごした。

<DATA> フトツの
●足立区千住2-20
●3881-6875
●営業時間 10:00~20:00
●モーニング10:00~13:00
●定休日 月休



café KovaGarden

この日の夕方、バーカー400円、スターバックス、トースト、トマトチャウダーラタ、りんご、卵、バゲット、野菜が豊富な「メイドのコア」。特製ホーリメイドの千住警察署近くの「コバガーデン」は、一歩踏み入れて思わず深呼吸したくなるくらい気持ちのいい空間だ。高い天井、漆喰の壁、厚みのある木のテーブルと椅子、壁面を飾るコーヒーカップの棚。内装の設計はオーナー一家がみんなでアイデアを出し合って決め、地元の工務店が2ヶ月かけて施工したといい、「ひとりでも、お友達とも、ゆっくりしていただけるよう」との想いが込められている。コーヒーもおいしいが、オススメはホームメイドのココア。練り合わせてからお店に出すまで3日かかるそうで、香りがよくさらりとした口当たり。小メニューの400円プレートは、バタートーストの脇に季節のサラダ数種類とタマゴがきれいに盛り付けられ、目にも楽ししい。決め細やかな心配りと丁寧な手仕事に、心から温かくなる素敵なお店だ。

「フルーツガ
エニュー
ひらい」は、
西口ロード
リーに面し
た果物屋さん「フルーツひらい」の上
階にある。おばあさんが始めた果物屋
さんを母が受け継ぎ、喫茶店は兄と妹
が切り盛りしているという。11時少し
前に店に入るとき階は常連らしき人達
で満員。3階に上がり席に着く。大き
な窓から光が差し込んで明るい。ロード
タリーの歩道橋がガラス越しによく見
えるので、駅前の待ち合わせにちょうど
いい。人の流れを眺めながらコーヒー
を飲むのも楽しい。季節の果物をヨ
ーグルトソースでえまたニンフルーツ
サラダも付いて、飲み物代込みで500円
のモーニングセットは満足度が高く、
とってもお得。コーヒーも苦味とコク
があっておいしい。今度はフルーツバ
ブエも食べに来たいな。

フルーツ カフェ ニュー ヒライ Fruit cafe new HIRAI



<DATA>
●北千住西口駅前
●3879-6036
●営業時間：8：30～22：00(ラ
（金・土）8：30～23：00(ラ
●モーニング11：00まで、ラン
●定休日：月休（祝祭日のぞく）

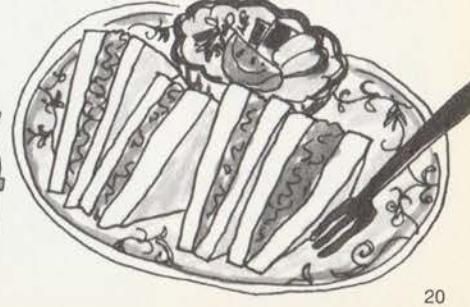
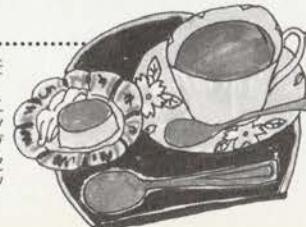


木の花

駅前通りに面した2階
「茶房 木の花」。イン
食器が和風で統一され
イスフレイサイされた和陶
が目を惹く。「おいしい
のタマゴサンドをオー
と、ふわふわのスクラ
ッグが入ったサンドイ
チ였다。一緒に連れて
きた娘、ひとくち食べて
いい!」どれどれ私
うだいと言つてほおば
んのりと温かくやさしさ
供や年配の方にも食べ
やすい好きなデザイ
ン。娘の好みなスイーツ
一品で500円のスイーツ
朝はあまり食欲がない
か少しだけ食べたいの
決まって注文する常連
のそつた。

<DATA>

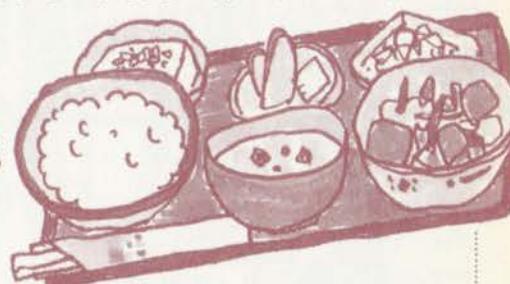
- 足立区千住2-22-2階
- 3882-8720
- 営業時間：（平日）8:00～18:30（土）8:00～18:00
（日祝）9:00～18:00 ラストオーダー30分前。
- モーニング8:00～11:00、ランチ11:00～14:00
- 定休日：火休、月1回日曜休



<ランチ編>

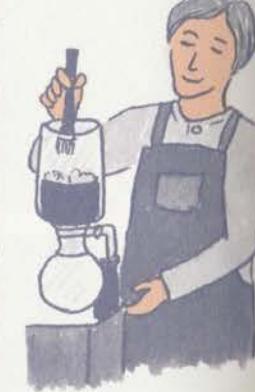
シビア

日光街道沿いにある「シビア」は、充実したランチメニューが人気の店。この日も仕事の暇休みに来たお客様が満員だった。しおが焼きやコロッケなどの定食のほか、チャーハンやカレーなどの文字がメニュー。フレークにすりと並ぶ。厨房から匂いが漂ってきて大いに食欲がそぞれるが、豊富なメニューを前にするとつい迷ってしまう。よし、肉じゃが定食だ。運ばれてきたお盆を見て思わずボリューム満点! と心で呟く。しっかりと味の染みたジャガイモが口の中でほろほろ溶けておいしい。お肉、にんじん、玉ねぎ、しらたき、インゲンが彩りよくたっぷりと盛られたどんぶりを手に、ひとりニンマリしてしまう。具ださんのお味噌汁や冷奴に箸を伸ばしながら、しっかりとお昼ご飯をいただいた。



<DATA>

- 足立区千住桜木2-7-3
- 3870-5633
- 営業時間：8:00～20:00
- モーニング8:00～11:30、ランチ11:30～14:30
- 定休日：日祝休



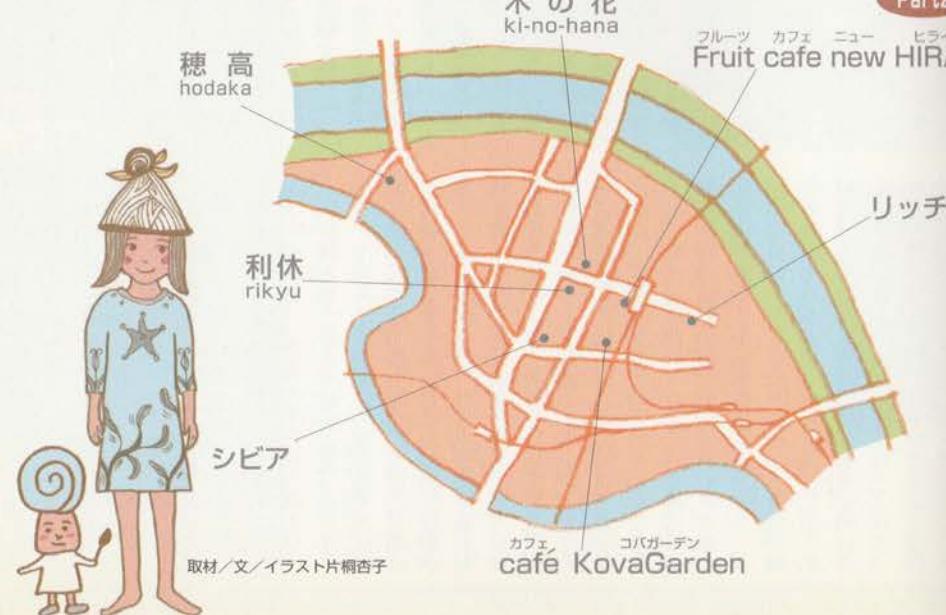
珈琲の穗高

穂高は、尾竹橋通りのバス停「千住桜木」の目の前。店名からわかる通り、「300m級の日本の山はほとんど登った」という山好きのご主人と奥様が約30年前に店を開いた。昔の映画に出てくるような不器用な雰囲気、それとも山小屋風と言つたほうがいいのか、味のある店だ。さて、何によしかなとメニューを眺め、コーヒーとコーヒーのセットを注文する。大きなお皿に色々に分かれた白いご飯と濃い色のカレー。家庭では出せない深い味のある味はやはり、パウダーカラーケーキをつくり、数日かけて煮込んでいるそうだ。開店以来通い続けるお客様も多いというのも頷ける。無類のコーヒー好きが高じて喫茶店を始めたというマスターとやさしい笑顔の奥様が大事にしてきたこの店は、喧騒を離れて静かな時間を過ごすにはうってつけの場所だ。

<DATA>

- 足立区千住桜木2-7-3
- 3870-4109
- 営業時間：10:00～19:00
- ランチタイム特になし（いつでも食べられます）
- 定休日：月火休

喫茶店のモーニング & ランチ食べ歩きマップ



取材／文／イラスト片桐杏子

■プロフィール／片桐杏子
町雑誌千住副刊時よりイラスト担当として参加。一女

リッチ

東口の商店街にある「リッチ」。この店の内弁当は「野菜が豊富で栄養のバランスがいい」と地元で評判だ。それもそのはず、マスターの奥様が家族の健康を気遣つて家でいつも作っている野菜豊富な食事をお客様にも出そそぐ始めたのが「特製幕の内弁当」だからだ。煮物や豚の物は事前に仕込んだものを使つが、メインの一品は注文が入つてから調理するといつ。これも「アツアツのおいしいところを食べて欲しいから」との心配りから。この日のエッグフライも、アツアツ・サクサク「ぱりぱり」。白いご飯はつやかで、しっかりと煮合せられた煮物は上品な味。女性客に支持されるとも納得だ。マスターが淹れてくれるサイフォンコーヒーも「マスターの温かい人柄」とあいまってひとときわ味わい深い。

<DATA>

- 足立区千住旭町3-11
- 3888-5986
- 営業時間：9:00～24:00
- モーニング9:00～11:00ランチ11:00～14:00
- 定休日：日休





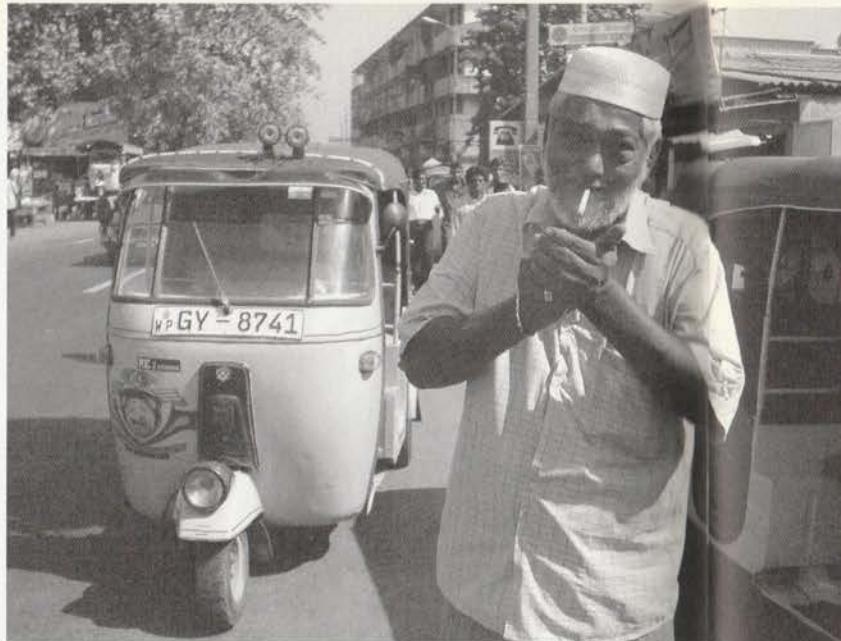
見たことない
世界が広がる
神秘の島スリランカを
訪れてみませんか?

VISIT LANKA社は
おひとりおひとりのご希望に添った
さまざまな旅の形を提案します。

現地スタッフが心を込めて
日本の皆さまの心に残る旅を
コーディネートします。

VISIT LANKA (PVT) LTD.
No. 504-4F, Nawala Road, Rajagiriya, Sri Lanka.
Tel. +94 11 2878749, 2878789, 2878799, 5554884
Fax +94 11 2879777 E-mail: visitlanka@slnet.lk

西武トラベル(株)
担当者 青木伸行
150-0001 渋谷区神宮前6-35-1
Tel 03-3459-8186
Fax 03-3435-8046



スリランカ：旧名をセイロンという。首都是コロンボ。インド半島の南端にあり、紅茶の産出国として知られている。

にぎやかで色とりどりの街の往来に少し疲れたら、小さなカフェに立ち寄っておいしい紅茶を飲むのもいい。スリランカは、世界でも最高級の紅茶の大生産国の一ひとつだ。紅茶は、レモンか暖かい牛乳で飲む。「プリンスストリート」には堂々とした円柱と、敷石のベランダがある白くて高い建築物がある。これは1692年から1698年まで、オランダ総督トマス・ヴァン・リーフの邸宅であった。1977年に、「オランダ時代博物館」に変わるもので、軍用病院や郵便局として使われた。美術館の真ん中にある静かな庭園は、ペターの街の喧騒がまるで嘘のように、穏やかな対比を作り出している。



コロンボの風変わりな市場 ペター

PETTAH / スリランカ

文・写真：Kent Dahl

エキゾチックな香辛料の香りが漂う。人々は腰にサロンを巻いている。漁師たちはカゴに入れた道具を頭に乗せて運んでいる。それでも、このコロンボの風変わりな市場と千住には、いくつもの共通点がある。細い路地沿いにたくさんの中屋が並ぶ、この混沌とした区画は、スリランカ経済の中心なのだ。



魚屋やレストランに運んでいく。せかせか類は千住とは随分異なる。売られた魚は、裸足にサロン姿の労働者「ナタミ」が、小市場より幾分か大きく、売っている魚の種類は千住とは随分異なる。売られた魚は、朝、早起きすると、賑やかな魚市場を見ることが出来る。この魚市場は、千住の魚市場よりも大きく、売っている魚の種類は千住とは随分異なる。売られた魚は、と忙しそうに動き回っている男たちは、重労働にもかかわらずいつも陽気で、朗らかな笑顔を絶やさない。

魚市場から

魚屋やレストランに運んでいく。せかせか類は千住とは随分異なる。売られた魚は、裸足にサロン姿の労働者「ナタミ」が、小市場よりも大きく、売っている魚の種類は千住とは随分異なる。売られた魚は、と忙しそうに動き回っている男たちは、重労働にもかかわらずいつも陽気で、朗らかな笑顔を絶やさない。

魚市場から魚屋やレストランに運んでいく。せかせか類は千住とは随分異なる。売られた魚は、裸足にサロン姿の労働者「ナタミ」が、小市場よりも大きく、売っている魚の種類は千住とは随分異なる。売られた魚は、と忙しそうに動き回っている男たちは、重労働にもかかわらずいつも陽気で、朗らかな笑顔を絶やさない。

ペターは元々、千住同様、「下町」と称されていた。17世紀にオランダがスリランカを統治下においたとき、彼らは砦を作つて「コロンボフォート」と名付けた。かつては住宅街だったが、今では大企業や銀行の集まる地区だ。イギリスが100年後にやってきて、「コロンボフォート」の東側を貿易区にした。スリランカには独自の言語、シンハラ語があるが、イギリスは新しい貿易区を形容するのにイングリッシュのタミル語から派生する「ペター」というインド英語を使った。

「ペター」は文字通り訳すと、砦の外側の郊外という意味になる。ちょうど千住が、山の手の外側のまちであるのと似ている。

朝、早起きすると、賑やかな魚市場を見ることが出来る。この魚市場は、千住の魚市場よりも大きく、売っている魚の種類は千住とは随分異なる。売られた魚は、と忙しそうに動き回っている男たちは、重労働にもかかわらずいつも陽気で、朗らかな笑顔を絶やさない。

魚市場から魚屋やレストランに運んでいく。せかせか類は千住とは随分異なる。売られた魚は、裸足にサロン姿の労働者「ナタミ」が、小市場よりも大きく、売っている魚の種類は千住とは随分異なる。売られた魚は、と忙しそうに動き回っている男たちは、重労働にもかかわらずいつも陽気で、朗らかな笑顔を絶やさない。

魚市場から魚屋やレストランに運んでいく。せかせか類は千住とは随分異なる。売られた魚は、裸足にサロン姿の労働者「ナタミ」が、小市場よりも大きく、売っている魚の種類は千住とは随分異なる。売られた魚は、と忙しそうに動き回っている男たちは、重労働にもかかわらずいつも陽気で、朗らかな笑顔を絶やさない。

トリー」はイギリスの名前だ。

多くの通りにはそれぞれ特定の種類の商品を専門的に売っている店が並んでいる。紅茶や赤米、豆類を探すなら「ダムストリート」がいい。「セカンドクローストリート」には布地と仕立て屋がある。「シーストリート」には家族経営の宝石商や貴金属商が揃っている。あちらこちらに、安物の小物類を売っている屋台風の小さな店があり、宝くじ売りがいる。くじ売りは自転車に乗り、小さな拡声器を使って「ジャングボ“宝くじー！”と売り込んでいる。

コロンボは1年を通して暑いが、千住の

様に灯油売りが配達のために通りを巡回している。灯油は料理に使われている。千住と違うのは、灯油売りが車を引くのに牛を使う点だ。飾り立てられて長い角が赤や緑に塗られた牛も、たまにいる。

ある古いパラソルの下には、ペターで唯一のサバイバルナイフ研ぎ師がいる。彼は古いオートバイの機動力のある交換部品をたくさん使って研ぎ機を作り上げた。ナイフやハサミを研いで40年になる。かつては7つのとき機を使っていたが、千住同様、この商売も廃れつつある。

先に進んで、オランダとイギリスの植民地時代を反映する多くの通りのあるペターの街を探検してみるのもいい。「ウルフエンダ通り」と「ハルスドーフ通り」はオランダの、「ダムストリート」と「クロス

24

千住宿珈琲物語

【珈琲屋】

場所 ■ 東京都足立区千住仲町3-6
営業 ■ 平日／午前8時～午後9時
電話 ■ 03-3882-5524

北千住駅より徒歩7分
日祝日／午前9時～午後9時（火曜定休）
<http://www.coffee-story.co.jp>

わたしはここでないと原稿は書けない！と思いつでいるので、たいてい奥のソファ席で、せっせと取材文やコラムなどを書いてい。この店には原稿用紙に万年筆が似合うのになと思いつつ、ノートパソコンをバチバチさせてる。

この文章もそう。

わたしだけでなく、同じ時間帯に、同じ席で、同じことをして行きつけてしている常連さんが多い。カウンターには、毎朝一番乗りで年中アイスコーヒーを飲むおじさん、近所の美容院と焼き鳥「遠山」（同コラム15号掲載）は家族総出でモーニング、原稿を書いていない



[1]マスターが趣味でつくっている陶器も紛れているので、リクエストすると出してくれる。自家のベットのカメラをモチーフにした豆入れもユニーク。

[2]1カップ毎にきちんと計量器で計る。

[3]カウンター9席、テーブル12卓。

[4]豆の販売もしている。セールス日は毎月末の金土日。

[5]物語ブレンド￥550（おかわり￥250）。スマートレートコーヒーは浅煎りから深煎りまで豊富な種類。自家製のダッチ珈琲を使った珈琲ゼリーやケーキ、トーストサンドも各種。

[6]サンドを作るママの手さばきは見えて楽しい。

[7]のりチーズトースト￥450は、ついで一杯が飲み物に変えられる。

[8]モーニングサービス8:30～11:30￥600：ブレンドとバタートースト・卵でたまご・ポテトサラダのブレード。ランチサービスセット￥450は、ついで一杯が飲み物に変えられる。

[9]アルバイトさんの、いつになっても新人みたいに控えめで素朴なサービスもなんかいい。

[10]カップ＆ソーサーは、開業後いつになっても買付けて行った中で、普段骨董市で見つけたものなど約300客。

[11]ここは喫茶店というより「珈琲屋」と呼びたい。「味の大部分は焙煎の仕方で決まるから、ここが個性の出しどころ」とマスターの望月章雄さんが言うように、厳選した生豆を、店の奥のガラス張りの部屋で、丁寧に自家焙煎している。どれも新鮮でホント美味しい。

ときのわたしもマスターやママとペチャクチャおしゃべりして。落ち着くソファ席は人気で、新聞を読むばかり読む年輩夫婦、ブランドや化粧品や彼氏の話題でランチを楽しむOL、商談をしているちとこわおもての人たち、静かに本を読んでいるかほんやりしている主婦グループは身動きしやすい中のテーブル席で井戸端会議。仕事の合間に立ち寄るタクシーの運転手さんはササッとどこでもいいようだ。ここは駅から少し離れているせいかご近所らしき人が大半で、老若男女、幅の広い客層は、まるで千住の縮図のよう。

開業は昭和62年。今でこそいつも満席の店内も、開店当時の千住

辺りは、レギュラーコーヒーの普及が遅く、誰もお客様がないない時間帯のほうが多いくらいだったそう。

マスターは吉原生まれの浅草育ち。今は落ち着いた二枚目だが、実はやんちゃな悪ガキだった。中学生の頃から大人ぶって珈琲を飲み、浅草の喫茶店へ毎月「コーヒーおかわり自由の日」には、友だちと何杯も何時間もねばつたりしていた。自分が珈琲屋をはじめていた。自分が珈琲屋をはじめて、文句一つも言わなかつたお店の人にはただただ感謝。話しかけると意外におしゃべりで、やんちゃな面影が垣間見られるのがおもしろい。

ママは浅草橋の寿司屋の娘、2人ともチャキチャキの下町っ子。マスターが二十歳の頃修行していた珈琲屋で、女子高生だったママがアルバイトをはじめたのが出会い。なぜかわたしは3年間くらい夫婦だってことに気がつかなかつた。でも1日中顔を合わせててのに、飲み屋で会つたりすると、すごく仲がいいんだよね。



なかだえり

町の雑誌千住は、応援会員の皆さんのご協力、販売いただいているお店のご協力…と、町の多くの皆さまと一緒につくり上げている雑誌です。皆さまの応援参加をお待ちしています。

応援参加会員のお願い

- 購読応援会員** 年会費3千円以上（各2冊3回配本・送料、手数料込み）
 - となり組応援会員** 年会費6千円以上（各4冊3回配本・送料、手数料込み）
 - 心意気応援会員** 年会費1万円以上（各5冊3回配本・送料、手数料込み）
 - 法人会員** 年会費3万円以上（各10冊3回配本・送料、手数料込み）

●心意気応援会員は紙面でお名前を、法人会員は社名他をご紹介させていただきます。

●2口以上のご協力、500円からのカンバも大歓迎

会員になっていただける方はお近くの郵便局から下記までご入金ください。入金確認次第、会員登録させていただきます。名前、郵便番号、住所、電話番号のご記入を正確にお願いします。【郵便振替口座】00140-4-103836（町雑誌千住編集室）

会員になってくださった皆様ありがとうございます

足立区観光協会	あやめ寿司 本店	石原 捷恵	一 初	伊藤隆太郎
上木 恵子	うなぎ千寿	(有)裏方家多聞堂	奥乃丸伸之助	紙 谷 衛
喫茶 蔵	鯨岡 亘	久保田生花店	金 藏 寺	茶 翁
坂本税理士事務所	笹木美奈子	塩島 莞爾	清水 正雄	新日本百年茶
鈴木 尚利	スペースエイド	千住ファーマシー	千住本氷川神社	高見澤康夫
鳥 真	虎谷 恭子	中島 勝正	野田 征子	堀内 延浩
松田季美子	柳原ぽん太	波多野 純	日比谷松夫	宮田 一男
酒のモトハラ	よしだ や	吉田 忠司	若林登紀子	(敬称略、順不同)

コミック3万冊ゆったり80席
まんが喫茶
営業時間 平日AM10:00～PM11:00
日祭日AM10:00～PM10:00
TEL 0222-555-6666

槍かけ松最中
お地入り表
千住 なか井

東武旭町歯科医院
削らないのに白い歯になれ
TEL 3888-3971
北千住駅東口
足立区千住旭町4-10

人が好きです……この街が好きです
 不動産のことなら
 YAMAZAKI
HOUSING なんでもご相談ください
(有)山崎ハウジング
 足立区千住1-18-4
 TEL **3882-2324** (代)
<http://www.yanazaki-h.co.jp>

貢トラヤ
オフィス用品・OA機器・デザイン用
千住旭町40-27
TEL〈03〉3888-5526
E-mail:toraya@adachi.ne.jp

カンパをしてくださった皆様 ご協力くださった皆様 ありがとうございました

町雑誌「千住」 VOL.18 2004年 10月発行
発行 千住・町・元氣・探険隊 編集 町雑誌千住編集室 編集人／大野順子
〒120-0044足立区千住緑町2-33-23 TEL 03-3870-7055 FAX 03-3882-5845

千住・町・元氣・探険隊HP : <http://1010tankentai.fc2web.com>

千住のヒト・モノ・コト、千住の情報を寄せください。

町舎跡 千住

- | | | |
|--|---|--|
| ミ
住
柳
ン
店
永
ギ
店
の
山
モ
易 | バックナンバー販売店
アサヒ書店
笠間産業
喫茶 蔵
北嶋書店
紀伊国屋北千住丸井店
高原書店
ぶっくらんど
丸善ひかる北千住ルミネ店
渡辺優文堂
書肆アクセス(神保町) | VOL. 1 千住の祭
VOL. 2 錢湯めぐり
VOL. 3 飲み処食べ処
VOL. 4 千住宿を遊ぼう
VOL. 5 千住の餅菓子屋
VOL. 6 映画文学の千住 前編
完壳
VOL. 7 映画文学の千住 後編
舞台となった千住
VOL. 8 千住手仕事職人の世界
千住手仕事職人の世界
VOL. 9 千住の年中行事
VOL. 10 ネコの眼鏡地歩き
千住の年中行事 |
|--|---|--|

NEW

通信販売取扱店
ピーアンドエス
TEL03-5808-1278
FAX03-5808-1279
Email:
senju1010@10ants.com

♪次号VOL.19は♪千住の仕掛け人PART1 棲めば楽しの千住を、さらに楽しく味付けしている

VOL.17P2で永見富二さんとあるのは永見富次さんの誤りでした。訂正してお詫びいたします。

各連載に加えて「新撰組の千住」なども予定しています。お楽しみに！

協力頂いた皆様には、大島ともども本当にお礼を申し上げます。しかしながら湯あがりの鳥好のホッピーの旨さは、格別に旅気分を味わわせてくれました。(柳下) ■美味しいごはんをつくろうって、最近特に意識して料理に励んでおります。(杏子) ■最近キモノにはまっています。千住のまちを和服でお散歩。何だかステキな出会いがでできそうな。(川上) ■中国で見たドラマが面白かったので、再度中国に行つた時にビデオCDを貰つた(40巻分)のですが、家のパソコンでは見られない! おあすけ状態です。(こじ) ■湯桶を置く音、水の音。シャンプーとせっけんの匂い。錢湯に行くと、体の筋肉がゆるり、ほどけていくよくなががする。千代の湯さんが9月末で閉店になる。さびしい。今までありがとうございました。(じこ) ■暑いのも寒いのも苦手。だからほんの短い秋を、食べて、飲んで、食べて、飲んで、ひと散歩もして、おおいに楽しまなくちゃ。(なかだえり) ■花火に盆踊りに秋祭りはエキソチックフェアかな? レクリークである前に千住のイベントフリークの私は休む暇がありません。しかし、さすがに平日のイベントは無理なので、シスターー10-10のこけら落し公演はカミングさんに行つてもらいました。(ひろせ)

本誌掲載記事・写真・イラスト等の無断複写（コピー）・複製・転載を禁じます。

北千住

ステキが実る、 秋の北千住マルイです。



OIOI 北千住マルイ

〒120-8501 足立区千住3-92 ☎ 03(5244)0101
営業時間 午前10:30 ▶ 午後8:30

